

公民館だより Toyosato

No. 86



豊里コミュニティ推進協議会

豊里公民館広報

6月号

令和2年6月1日発行

～交通死亡事故ゼロ～

3500日達成
目指せ4000日!!



豊里コミュニティ推進協議会が交通死亡事故ゼロ3500日を達成したことで、登米市交通安全対策協議会長（市長）と登米警察署長から表彰されました。

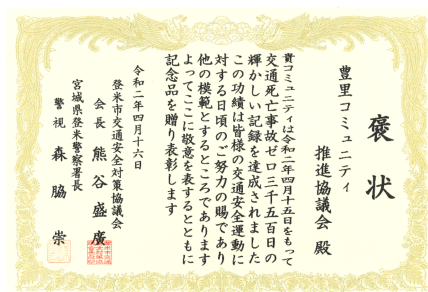
これは今年4月15日に節目

を迎えたもので、平成22年から9年7か月に及ぶ記録であり、現在も更新を続けています。

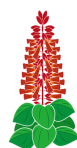
協議会を代表して褒状を受章した佐々木信義会長は「交通死亡事故は当事者のみなら

ず、そこに住む人全員が悲慘な思いに打ちひしがれます。そのような悲しい出来事が起きないように、関係機関・関係団体とともに、地域住民が一丸となって交通安全活動に取り組み、一日でも長く記録を伸ばしていきたいです」と決意を新たにしていました。

登米市内での最長記録は登米町の日根牛コミュニティ推進協議会で、現在8500日を超えており、私たちの町もこの記録に追いつき追い越すつもりで、交通安全に取り組んでいきたいものです。



町内会・各団体を対象に 花苗を配付します



豊里コミュニティ推進協議会では、今年もおよそ2万本の花苗を準備しています。

美しく彩られた素敵な街を広めていくため、町内会の皆様のご協力により、花いっぱい運動を展開しています。

配付日時 6月12日(金) 午後2時～4時

配付場所 豊里公民館裏（バス車庫側）

公民館は「3密」を避けて

緊急事態宣言の解除を受け、5月25日から公民館等施設の利用が可能となっています。

利用するに当たって、次のような感染予防対策の徹底にご協力願います。

- ◎「咳エチケット」「手洗い」「マスクの着用」「共同で使用する物品の消毒」など通常の感染症対策
- ◎「3密」を避ける
- ◎イベントや会議参加者の名簿作成など

便利さの陰で人の温かみが



公民館長
伊藤隆敏

今ではどこでも欠かせないマスクですが、付けて涼しい「冷やしマスク」の自動販売機が山形県にあるそうです。至る所で昼夜を問わず活躍している各種自販機。その設置台数は全国で415万台と、国民30人に1台という勘定です。この自販機をはじめ対面せず利用が足せるモノは、時間や労力の効率化を追求し、非接触社会を先導してきたように思います。

こうした中、新型コロナウイルスが世界中の人たちを苦境に陥れています。人と会えないことの辛さ、買い物に行けない苦しみなど、当たり前だったあの日がとても恋しく、その思いが日々募るばかりです。便利な非接触社会の裏側で、人のありがたさ、温かみを痛感する毎日です。

国からは、人との間隔を空けることやマスクの着用、移動の制限などが求められています。早くこの「新しい生活

様式」から解放されたいものですが、そのときまで、人と会う普通のこと特別なことになってしまわないよう、準備万端でいようと思います。もちろん公民館活動でも。

新たな地域づくりスタート

さらに豊里が魅力ある地域であるために、本年度からの活動計画『第2次豊里地域づくり計画』が出来上がり、本紙と併せて概要版をお届けすることができました。

今年3月完成を目指し、1月からスタートした計画策定作業でしたが、3月以降は新型コロナウイルスで委員会が開けず仕舞い。その後は策定委員の皆さんと郵便でやり取りをさせていただき、この度おかげさまで完成することができました。

計画策定に当たっていただいた委員の皆様には感謝の言葉しかありません。おかげさまで。ありがとうございます。

今回の第2次地域づくり計画は、その主役を“いま・こ



集落支援員
石川清守

こ豊里に暮らす住民“である”としました。そして、その住民の皆さんに今後も末永く住んでほしい。そして、そんな愛着の持てる豊里をさらにみんなで創っていきませんか。というメッセージを込め、基本理念を【ずっと住みたいまち みんなの豊里】としました。

基本理念の下、3つのテーマ、6つのプロジェクト、9つの事業を展開していきますので、ご支援・ご協力のほどをよろしくお願いします。



平筒沼自然学習館に展示している貴重な文化財をシリーズで紹介しています。

今回は、昔の筆記用具「矢立(やたて)」です。

「ナンダベ」とは豊里語で、「何だろう」という意味ですよ。分かりますよね。

矢立(やたて)



矢立は筆記用具です。硯(すずり)と筆を一つの容器におさめ、硯の水がこぼれないように、もぐさなどに染み込ませ、携行して使いました。いわば昔

の万年筆ともいえるでしょう。

矢立は鎌倉時代から使われており、陣中では「矢立の硯」と称していました。江戸時代には硯に代わって墨壺を付けるようになり、腰に差して歩くのに便利で、次第に金銀細工を施すなど、贅沢品となりました。特に元禄以後には華美のものが黄銅、赤銅、陶器のもの

まで現れ、墨壺を別にした印籠矢立(いんろうやたて)なども登場。明治以降には現代のような万年筆が登場し、急速に姿を消しました。

学習館に展示しているものは、昭和初期まで使われていました。

